

# IGER Seminar

## 限りある認知能力とその効率的な配分 に関わる神経メカニズム

Neuronal correlates of efficient but limited capacity of cognition

**講師** 松嶋 藻乃 特任助教

Ayano Matsushima, M.D., Ph.D.

東京大学大学院医学系研究科 神経生化学分野

Department of Neurochemistry

Graduate School of Medicine, University of Tokyo

脳の処理能力には、限りがある。見えていても認識できない、見たはずが思い出せない、  
ということは、私たちが日常的に経験することである。しかし一方で、私たちは重要なものを  
優先的に処理することで、瞬時に行動をコントロールできる。ここでは、そもそもどうして  
(Why、How) 脳の処理能力には限界があるのか、そして、限られた処理能力を適切  
に割り振るためどのような (What) 信号が生成されているのか、サルを用いて研究して  
きた成果を紹介する。前半では ①複数の物体に対して注意をむけたり、記憶する際、  
それらの相対位置によって前頭前野ニューロン活動が異なること、また②その活動パターン  
によって相対位置による認知容量の違いを説明できることを示す。後半では③前頭前野  
には、重要な情報を強調する信号に加えて、不要な情報を無視する信号が存在する  
ことを示す。これら一連の研究で得られた結果から、前頭前野の活動が、認知能力の  
限界を定めつつ、その効率的な配分に寄与しているものと考えている。



博士課程教育  
リーディング  
プログラム  
Program for  
Leading  
Graduate Schools

プラットフォーム システムバイオコース

◆日時 4月26日(火)17:00~18:30

◆場所 理農館3F SA335セミナー室

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/higashiyama/sci.html>

